

慶應志木会会報

慶應志木会(慶應義塾志木高等学校同窓会)

1990(春・夏号)



vol.3

1期生・2期生 座談会

我が農高… 家庭的雰囲気、強い団結心!

志木会の活性化を図ることを目的として、幾つかの期に分けて、それぞれの志木高校在学時の思い出を語る“座談会”が企画されるにいたりしました。

今回は1期生と2期生による座談会の模様です。

参加者：井上栄一、大谷照、櫻井栄三、櫻井英太郎、龍野和久、抜井宏寿、矢島醇一、(以上1期生)、鴻田一章、保田稜司(以上2期生)(アイウエオ順、敬称略)

司会 創立当時は私達の生まれる前のことですから、皆目見当がつかなくて非常に興味があります。まず、学校の様子をお聞きしたいのですが。

櫻井(英) まあ私達が1期生で入ったわけですが、その前に獣医畜産専門学校がありましたね。で、普通ならその獣医畜産専門学校が大学になるところが農業高校になった。募集人員は100人か200人位、それに満たなかったのが2年目から編入された方も3割位はいたんじゃないかと思います。

保田 そもそも農学部を作る構想があったわけですが、その農学部が駄目になり農業高校となったんですよね。

龍野 終戦後で教育そのものが新しい6334制度が実施され新制大学ができる流れのなかでしたから、大学受験して落ちた者や軍隊から帰ってきた者、旧制中学を終えて入ってくる人などいろいろな年齢の人達がいたから、ませた高校生が一杯いたといえるね。

抜井 もっとも農業学校といっても殆どの人

はやはり上に大学があるから、なんとか大学に入れるんじゃないかと、そういう希望、目的は持って入ったと思うんですよ。ところが入ってみると推薦はない、一般の人と受験をしたんですよ、我々の頃は。

井上 あのころは宮崎校長が法学部の教授でしてね、法学部への進学者ばかり多かった。だから僕が面接を受けたとき、「どこの学部だね。」って聞くの。「いや私はもうこの際音楽へ進む決意をしました。」って言うと、ほっとしたような顔をされて、「君ほんとかね、ほんとかね、大丈夫かね。」って(笑)、半ば喜んだような顔をしてましたね。

櫻井(英) それとね、もう一つの特徴は授業と実習が半々のウェイトをしめてたね、農業実習。その実習ってのが厳しかった。

櫻井(栄) 実習はほら代返がきかなかったし。

抜井 そもそも松永安左エ門さんが農地を慶應に寄付されたわけだが、あの頃は農地法という法律があって、耕作して一定の量を作らないと没収されてしまう。で、それを全部我々がやってきたということですね。

鴻田 1期は殆ど開墾だったね。あれはきつかった。

櫻井(英) 麦踏みもつらいが、開墾ってのはせいぜい一人一坪もできないでしょう。深さ

